

東地申  
第1号「JR 東労組東京地本第42回定期大会発言」に基づく申し入れ  
団体交渉を行う⑤

8. 輸送指令員が担当する方面の壁をなくすための「指令室改革」構想については、生見尾踏切の事象なども踏まえ、指令員にはこれまでの経験を活かした「主たる線区」を中心とした業務に就かせ、「指令のプロフェッショナル」を育成すること。

回答) 担当する業務については、業務上の必要や社員の能力・適性等、総合的に判断することとなる。引き続き、必要な教育は行っていく考えである。

組合) 軸足となる業務という考えが乗務員や駅には現時点であることを、この間の交渉でも確認してきた。指令業務こそ「広く浅く」を追求してはいけない業務だ。主たる担当線区を明確にするべきである。

会社) 現在レイアウト変更を考えているところである。ライン管理の考え方で、司令員にはラインとして運行管理をしてもらいたいと考えている。安全レベルは絶対に下らない。

## 確認事項

① 指令室改革においてライン単位での輸送管理を意識した司令員の運用を行っても安全レベルは低下しない。

9. インターン制度による東京総合指令室との兼務の実施については、教育や要員への影響があることから、東京総合指令室へのインターン制度は中止すること。

回答) 引き続き、社員一人ひとりのスキルや今後のキャリアへの期待等、総合的に判断しながら人材育成を行っていく考えである。なお、現時点で指令インターンを中止する考えはない。

組合) 仕事を教えても元の職場に戻ってしまう。教える側のモチベーションにも関わる。指令内での受けとめは、「せめて伝達だけではできるようにしておこう」というレベルだ。

会社) 様々な意見があることは把握している。経験者の感想などを見ても指令へのインターンは成功していると考ええる。

組合) 送り出す側の本人への意識づけはしっかり行っているのか。希望していないという声も聞く。

会社) 本人希望を把握したうえで職場から送り出している。

組合) 他の地方ではインターン復帰者への補完教育が不十分なまま乗務に復帰させたとの声も出ている。首都圏本部としてどう考えているのか。

会社) 必要な教育は行ったうえで乗務復帰してもらう。

## 確認事項

① インターンに対する現場からの様々な意見については会社も把握している。

② インターンの配属は乗務線区が含まれる方面への配属が基本である。

③ インターン終了後の復帰者に対する補完教育については、必要に応じて線見を実施するなどの必要な教育を行った上で業務に復帰させる。

10. 輸送システムの社員には「運転協会誌」の申し込みをさせている実態があることから、しっかりと説明を行うと共に、申し込みや退会含めて社員の意志を尊重すること。

回答) 一般社団法人日本鉄道運転協会への入会等については、必要な説明の実施やコミュニケーションを図ったうえで対応していく考えである。

組合) 入退会は任意。退会の事実が、本人の不利益とならないことを確認したい。

会社) 一般社団法人日本鉄道運転協会は国から業務を委託されることもあり、会員数が多いと意見が通りやすい。会社としては加入して欲しい気持ちはあるが、あくまでも任意によるもの。

## 確認事項

① 退会したいという本人の意思は妨げない。退会は企画に意思表示すればできる。

② (一般社団法人日本鉄道運転協会への) 加入・未加入の違いによる本人への不利益はない。